

茗溪学園中学校高等学校

Study Skills 満載の「中3 短期入寮」

教務部長 田代 淳一

茗溪学園の中学3年生は、今年も10月の中旬に1週間寮に宿泊し、昼間は通常の授業、夜は12月の国内研修の準備をして過ごしました。今回は33回生の、その「短期入寮」のレポートです。

中学3年の国内研修

茗溪学園のStudy Skillsの指導ステップのうちで前半の重要な位置に位置づけられているのが中学3年生の国内研修です。テーマを設定し、そのテーマに沿った事前調査を行い、現地調査を含めた研究活動を行って資料を分析し、考察し、まとめて報告する。一連の探求活動をここではグループ単位で行うからです。ここでの経験が、後半の高校での個人での探求活動につながっていきます。

テーマの設定、資料の収集と事前調査には時間がかかります。グループ内での話し合いや合意形成、役割分担、調べてきたことのすり合わせも必要です。テーマ決めは9月後半から話し合い、ちょうど事前調査が終了する時期、10月中旬に1週間の全員入寮があり、夜の学習時間（7時半～9時）にきちんとテーマが設定できているか、本調査目的に沿った事前調査が適切にできているかどうかをチェックするヒアリングが行われます。子ども達にとっては、ここが最初の大きな関門です。

事前調査のヒアリング

ヒアリングは月～水の夜という3日間かけて1班ずつ順番に呼び出され、社会の先生を含む数名の先生の「査問」を受けます。代表の生徒がまず、テーマ設定の理由と調査目的、現

地での訪問調査の希望先とその理由、どんな成果が見込めるかを答弁し、そのあと8名の班員一人ひとりに対し、役割分担になっている調査項目は何か、どこまで調べてきていて（参考文献や資料は何か、どのように入手したか）、どのような疑問が生じたか、現地調査で明らかにしたいことは何かが問われ、答弁していきます。そのため、1班のヒアリングに30分以上はかかるため、全30班分行うと3日かかるのです。順番を待っている間や自班のヒアリングのない日は夜の図書館で追加で調べることが許されるため、熱の入った調べ活動になります。今年の33回生はなかなか優秀で、よく分担できていたため、ヒアリングに不合格になったのは3つの班しかありませんでした。

不合格のB組1班はテーマ決めの際に問題があったようです。テーマ探索はブレインストーミングを用いて決めさせますが、その際あがった3つの希望テーマ「西陣織」「京友禅」「箸」を班内で絞り込めず、3つのテーマの混在した状態でそれぞれの調査をしてヒアリングに臨んでしまいました。そのため、先生たちの鋭い指摘に耐えられず、自己破綻して「不合格・再調査」となりました。同じく不合格のD組4班は「清水焼と有田焼」というテーマであり、一見有名なふたつの焼き物の比較検討のように思えたのですが、実はなぜ有田焼と比較するのか、どういう点を比較したいのかが不十分だったために「不合格」となりました。3つめの不合格、D組1班は班内の役割分担がよい加減で、事前調査が不足していたための不合格です。

反対にヒアリングで優秀な評価を得た班をひとつ紹介します。A組2班、テーマは「京都の襦（ふすま）絵」。京都の寺院に多く現存する襦絵に注目し、独立している様々な宗派と襦絵には何か関係があったのではないかと仮説を設定しました。また、事前調査の中で時代毎の襦絵の特徴から、その時代に好まれた様式と時代背景の関係を考察しています。たとえば、平安時代には「源氏物語絵巻」に描かれている襦絵



事前調査のヒアリング